

# 山浦瑛子教授定年退職記念号に寄せて

経済学部長 石川弘道

今年もまた先輩を送る時がやってまいりました。山浦教授の定年退職記念号に惜別の一文を記すに際し、先生のお名前の「山浦瑛子（やまうらいこ）」をおりこんで、一首詠うこととしました。

山を染め  
麗しく舞う  
落葉は  
栄華を保つ  
肥やし成らんと

山浦教授は経済学部長に引き続き、経済・経営研究科長を2期務められて退職を迎えられました。この間に経済学部の長年の課題であった大学院の設置が実現し、本学部は名実共に経済学の教育・研究の拠点となりました。大学院設置に至る道のりは必ずしも平坦なものではありませんでしたが、先生は常に先頭に立ち、前期課程、後期課程を開設することができました。しかし、完成年度まで1年を残したこの時に、まさに紅葉の一葉が舞うがごとく大学を去られるわけであり、その様なお姿を詠ってみました。

学部長・研究科長以外の管理職としては、就職委員長と経営学科長をそれぞれ1期務めておられます。まさに本学には欠くことのできない存在であったと思います。

研究面では、フランス会計学がご専門であり、教育面では学部において「会計学」と「原価計算論」を担当され、大学院では「財務会計」を担当され、数多くの研究者や会計分野の専門家を育てられました。また、ご自身も税理士・宅地建物取引主任者の資格を有しておられます。

山浦先生の私的な面について語るほどのお付き合いはないのですが、以前は犬を、現在は猫を育てておられ、愛犬を失った時の落胆振りから動物を愛する心優しいお姿を目の当たりにしております。また、専門分野との関係からと推察するのですが、フランスについてはとても精通されていると認識しております。

山浦先生には研究・教育そして大学院の開設に際し、常に高崎経済大学の

発展を願う姿勢が基本にあったように思われます。それは先生が本学の卒業生であることからくるものと推察されます。その高崎経済大学を1963年3月に学生として巣立ち、2006年3月に今度は教授として2度目の巣立ちをされます。山浦先生、長い間ご苦勞様でした。先生には、退職後も研究・教育に関わられるとお聞きしております。ますますのご研鑽を期待しております。